

第3回 神野公園再整備検討委員会 議事要旨

日時：令和5年8月21日(火) 9時00分～11時30分

場所：神野公園 神野のお茶屋

委員：後藤隆太郎、木下博幸、喜多浩人、徳田 誠、かくもとしほ、
富田紘次、納見浩司、馬場久雄、(8名) (敬称略)

アドバイザー：佐賀市情報発信強化アドバイザー博報堂ケトル 井手康喬

議 事

●現地視察

お茶屋・お茶屋正門→日本庭園→楠→江藤新平像→小動物園→野外音楽堂→とんぼ池→
こども遊園地→隔林亭→大池→交通公園→グラウンド→築山西側水路→築山エリア、の順に視察。

■神野公園再整備についての委員コメント

●検討の進め方

○令和6年に指定管理者と Park-PFI の検討を始めるということだが、指定管理者は神野公園全体の管理や公園の植栽管理、施設利用で活用し、Park-PFI は体験施設などで活用していくというイメージなのか。

(市)指定管理者に関しては、公園全体の管理者を募集したいと考えている。その中の体験施設や飲食店などに対して、個別に Park-PFI を導入できればと考えている。

例えば、神野のお茶屋全体をカフェとして利用したいと提案があれば建物の維持管理を含めて Park-PFI で考える。

(市)部分的に整備が完了したところは順次開放して、新たな体験を提供しながら、全体として、整備完了が令和9年ぐらいになると考えている。

○前回のあり方検討会から7年が経ち、その間にも植栽が伸びている。「人を呼び込むためにいかに景観を良くするか」と「ただ公園を良くする」の2点がある。植栽が伸び放題になっているなら、しっかり植栽管理をしていく必要がある。

(市)「見通しが悪い」、「防犯性が低い」との意見があったので、今回の再整備に併せて改善したい。

○植栽管理に関しては前倒しのできるもので、早めに対応して頂くということで良いか。

●前回(第2回)の振り返り

(井手)7つの体験の中で各々3つ程度、象徴的なものを決めたい。それが次回のゴールになるかもしれないという意識がある。やりたいことを広げていくフェイズと絞っていくフェイズをどのように段取りを行うか考える必要がある。

○第3回、第4回はやりたいことがある程度広がっていく一方で、スペースに限りがあり、場所や予算と合わせて絞っていく必要がある。今回と次回に関しては活発にご意見を出してもらい、アドバイザーからの意見をもらおうと理解した。

(井手)話題化のイメージの写真は SNS から取ってきたもの。キャプションは自分で考えている。
また、写真は撮ったものではなく、全て SNS から取っており、体験するシミュレーションである。

●アンケート調査等について

○アンケート用紙自体は配布する前に見たい。また、次回は結果を示していただくということか。

(市)アンケートの結果をまとめ、意見内容を報告する。

○心配なのが、「わくわくする新しい体験を教えてください」というアンケートをして、それがどの程度出てくるのかということ。アンケートの目的と結果をどう使うか分からないが、そこをはっきりさせて欲しい。

(井手)この2つの質問は良い質問で、改善点というのは定量的にまとめた方が良い。「新しい体験はどういうものかですか」という質問は市民に対して、アイデアをもらおうということになるので、680人の意見を見て1つの意見を拾い上げる判断とする。

○アンケートの対象者も小学生や保護者が主要になっている。

○SNSを発信する人の世代の意見も聞けると良い。

○確かに、680人の内訳を把握することも大事で、これだと子どもの意見と教育者の意見しか入ってこない。地元の方の意見はどうか。

(井手)旅行者など、属性を意識して狙うところに聞くほうが良い。

○こども遊園地の来園者の半分は市外の方なので、来園者にアンケートをすることも良い。

○佐賀市にはアプリがあるので、何かできないか。ホームページにリンクするなどできないか。

(市)デジタル推進課に確認する。

○地域の大人に改善点を聞くことも大事。東の入口から入ってみたいと思わせる整備が必要。

○防犯の面からも腰から下が見える程度の高さで伐採など整理してもらうことが早急に必要。

○こども遊園地でもアンケートをお願いすることがあるが、子どもが記入する内容などは現実的でない回答が大半ある。

○学校は、夏休みにプールが使えないので、プールがあれば子どもたちが遊ぶ場所としては1番賑わう。

(市)アンケートはこれに追加して来園者の方、こども遊園地の来園者にアンケートを行う。交通公園にもお願いして用紙を置く。また、スーパーアプリを活用してもらい、地元の方にアンケートを回答してもらう。

○「アンケート」と書くのはかしまってしまうため、佐賀市のスーパーアプリはみんな育て、活用していくアプリで、「誰かが何かに困っています」というワードを立てたらそこにみんなが書き込める。

「神野公園で何か困ったことある？」みたいなものを付けて書き込んでいくと様々な意見も出る。

○子育て世帯にもアンケートするということ。また、「地元」とは近隣の住民の方ということ。市外・県外の属性の違いを意識する必要があることも含めて、意見の違いが分かると参考になる。アンケートなので規模を大きくすることに越したことはないが、集計など大変になる。

(井手)「新しい体験、何か思いつきませんか」と聞いても答えが出てこないもので、7つの体験項目を見てもらい想像力を助けてあげる必要がある。

○調べ方はもう少し検討していただく。

●7つの新たな体験の具体化について

○現地視察で歩いて回った時に自然が楽しいと感じたので、スマホでスタンプラリーなど今ある資源を活用しても良い。

(井手)植物もナンバリングして「100種類見つけられるかな」みたいになると、楽しみながらスタンプラリーができる。自然を使ってゲーム感覚の遊びということ。

○神野公園はレトロな雰囲気が良いので、今のレトロな雰囲気を有効活用する。大きな木も木陰スポットとしてのポイントで残すと良い。

○神野公園に野良猫が住んでいると聞いている。移動動物園で動物とふれあうことも大事だが、地域猫をみんなで守るという考え方を根付かせるという考えもある。

○野外音楽堂は太陽が出ていても日陰になる観客スペースがあるともっと使える。遊具が中途半端にあり、人が集まりにくく、コンセプトが乱れている。

○佐賀市の熱気球のパイロット達が熱気球の運航で食べていけるような場所にできないかと考える。具体的な場所は小動物園のあたりが良い。

○佐賀県が「プリン県」で推しているため、隔林亭で呈茶の時のスイーツとしてプリンなどを提供できないか。

○健康の面から公園の中に遊歩道をつくれないうか。コースがあれば、多くの人が歩いてくれる。

○公園内を周ると距離や消費カロリーが分かったり、先ほどの「100種類見つけられるかな」と組み合わせても良い。

○体験に佐賀らしさが伴うと、それを体験した佐賀市民が「そんな佐賀の特徴があったのか」と気づくことで、佐賀市民の地元愛や自信に繋がる。例えば、古川松根の紙の折り方の見本が遺されており、そういう佐賀らしさを取り入れていくことも視点として良い。

○鍋島のお殿様の体験はお年寄りには、わくわくする。

(井手)とんぼ池を綺麗な水の象徴として整備することで、体験としても良く、守りたい公園につながるのではないか。例えば、隔林亭をカフェにしたり、神野のお茶屋も「殿様のレストラン」のような形でカフェにして、Park-PFIで運営したり、収益を環境の整備に充てると良い。

交通公園に関しては現状、誰にとってどんな学びがあるのか、はっきりしていない。まずはそこをはっきりはせたほうが良いと思う。

野外音楽堂のステージも、中央のステージを見る仕様になっていない。

ベンチが沢山ある公園は素敵だ。ベンチが沢山あるというのもくつろげる体験の象徴と考える。

○神野公園のメインの入口はどこか。何か正門の入口に機能が分かるようなサインがあれば良い。

○こども遊園地の今の一番の悩みが駐車場不足である。土日に駐車場が利用できないという来園者がいて、地元の人を遠ざけているという複雑な気持ちもあり、駐車場をまず考えなければいけない。

(市)小動物園について、空間と檻と展示の仕方について、改善点などを聞きたい。

(井手)旭山動物園の有名な行動展示のように、その動物の行動にあった展示をしてあげると良い。例えば、インコが見やすいケージにするなど檻の工夫が必要だ。そもそも必要なのか。暗くてせまいところに閉じ込めている印象で、ちょっと可哀想。

○せまいスペースを活かして出張動物園のように毎回違う動物が来るなど、そういうスペースで使うほうが良いかもしれないし、特定のものを飼育するのは限界がある。

○神野公園は、規模的に中途半端で、これからの議論で今かかっているコストに対して何が得られているのかということを検証してもらう必要がある。

(井手)何でも使える広場として整備して、市が積極的に「そこで何かイベントやりませんか」と呼びかけると良い。

○神野のお茶屋はここにしかないものだが、クジャクなどは他の場所のほうがみんなにふれあってもらえるという気がする。ここにいない必要があるのか。ここにいてもインスタなどに上がるイメージが沸かない。